

学校統廃合と小中一貫教育を考える 第4回全国交流集会in大阪



これでいいのか
小中一貫教育
学校統廃合！



2013年12月8日

堺市／大阪健康福祉短期大学

□午前10:00～12:00 全体会

- ・特別報告 堺によろこそ／堺市における維新との闘いと市民の共同（堺市教職員組合）
- ・全国の学校統廃合、小中一貫校をめぐる闘いと課題（山本由美：和光大学）
- ・大阪における「教育改革」の実態と府内各地の闘い（大阪教職員組合）
- ・全国各地からの報告（宮城県、大阪市 ほか）



□午後 1:00～ 4:30 分科会

テーマ、報告者、共同研究者・世話人

	内 容	共同研究者	世話人	各地からの報告（予定）
第1分科会 学校統廃合 地域の運動	全国各地で起こっている、学校統廃合と小中一貫校づくりに対する地域の運動を交流します。	佐貫 浩（法政大学）	井谷武士（泉北教組） 石原幸一（門真教組）	那覇市（沖縄） 三条市（新潟） 和泉市（大阪） 能勢町（大阪）
第2分科会 教育課程	すでに設立されている小中一貫校の教育内容を検証し、問題点を明らかにしましょう。	梅原利夫（和光大学） 金馬国晴（横浜国立大学）	八幡庄子（堺教組） 熊崎 聡（柏原市教組）	呉市（広島） 京都市 品川区（東京） 柏原市（大阪）
第3分科会 発達	子どもの発達を保障する小中のより良いつながりを検討し、創造しましょう。	金子泰之（常葉大学） 福田敦志（大阪教育大学）	三好達二（守口教組） 川原 誠（池田子どもと教育を守る会）	池田市（大阪） 守口市（大阪）
第4分科会 まちづくり	学校の統廃合や小中一貫校設立を契機として大規模化する校区について、まちづくりの視点から問題点を検証します。	新目真紀（青山学院大学）	河元吉政（淀川ネット） 馬場野成和（大阪教育文化センター）	流山市（千葉） 稲沢市（愛知） 淀川区（大阪市）

このシリーズは、大阪教育文化センターが発行した「輝け子どもたち」2013年版からの転載です。

Q2「部落問題」は今でも教えなければいけないのでしょうか

A2 消えつつある問題を教えれば、残すことになりません。

教えることはやめましょう。

子どもたちや市民の暮らしの中に部落問題はありません。「部落」を意識して生活していません。

どの調査結果を見ても、子どもが部落問題に出会うのは学校の授業というのが多数です。学校が部落を意識させているのです。

全国人権教育研究協議会（全人教）の全国大会の報告では教師が子どもに対して「あなたは部落出身だ」と告げる実践まで見られます。

その結果、部落問題はいつまでもたっても解決しない問題と認識させてい

ます。

小学校の教科書からは「部落」「同和地区」という名称や江戸時代の賤民身分の呼称が姿を消しました。府教委の人権教育指導資料集の小学校向けからも消えました。

一部に「部落」「同和地区」や賤民身分の呼称を教えているようです。教えたことで子どもたちがその言葉を使い、それをまた問題として学習に熱中するという悪循環が見られます。

大阪市内のある中学校では、「差別落書き」が見つかったとして教師が子どもたちに大問題として訴える実践がありました。聞いた子どもたちはその落書きが何を意味するのかわからなかったといいます。死語になっていく賤称語を教師が子どもたちに教えていたのです。死滅しつつあることをばを学校の教師がよみがえらせていいのでしょうか。